

町道 235 号線
事業再評価概要

平成 22 年度

京丹波町

目 次

□事業の目的	1
□計画の概要	2
□事業の経緯及び進捗	3
1. 事業の経緯.....	3
2. 事業の進捗状況.....	3
3. 関係機関との調整等.....	3
4. 現在の状況.....	3
□事業を取り巻く社会状況及び整備効果	4
1. 社会的背景.....	4
2. 交通環境の改善.....	5
3. 医療機関へのアクセス性向上.....	6
4. 高速道路の利便性向上.....	7
□費用便益比の算定	9
□コスト縮減や代替案立案等の可能性	11
□対応方針（案）	12

事業の目的

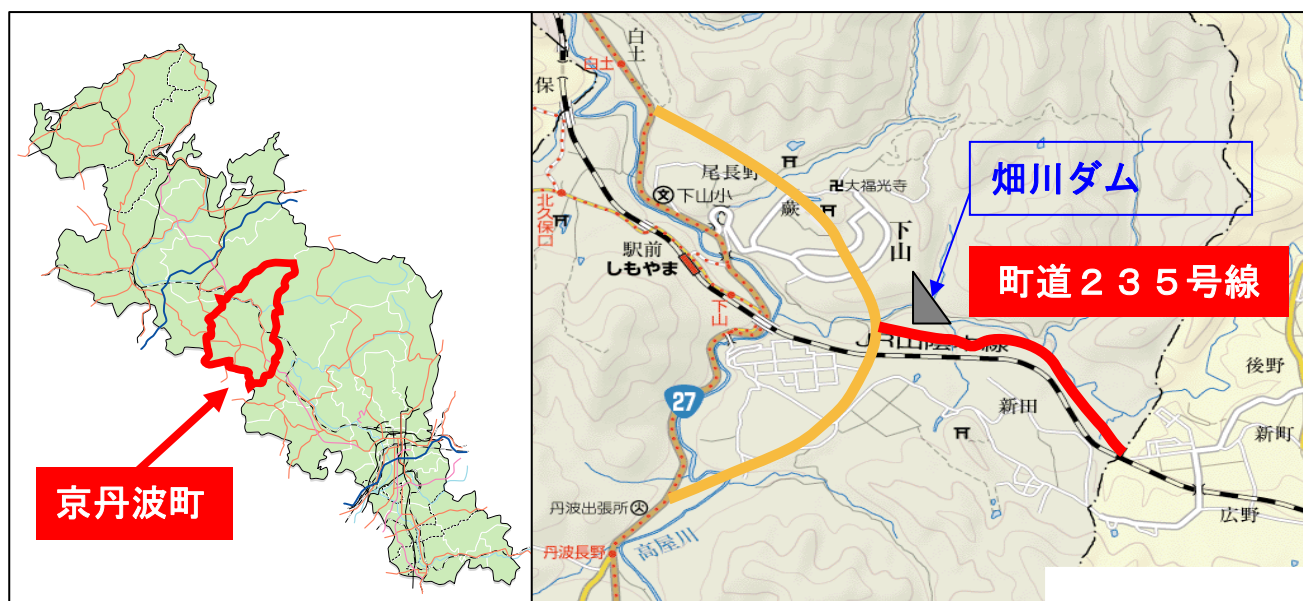
- 地域間連絡強化
- 河川総合開発事業「畑川ダム」支援

町道235号線は、国道27号下山バイパスより京都府南丹市の市道中道新田線へ通じる、全長約1.8kmの生活道路です。

現況の道路幅員は大型車の離合が困難であるほど狭小（W=4.0m）であり、かつ未舗装の道路であるため、本路線の整備によって国道27号下山バイパスから南丹市までのアクセス向上を図ります。

また、本路線は治水の向上と安定した水資源の確保の目的で平成4年度から進められている河川総合開発計画「畑川ダム」の建設事業を支援する道路としても位置づけられています。

■位置図



計 画 の 概 要

- ・ 起 終 点 自) 京都府船井郡京丹波町下山茨堂
至) 京都府船井郡京丹波町下山田渡
- ・ 全体事業費 約650百万円

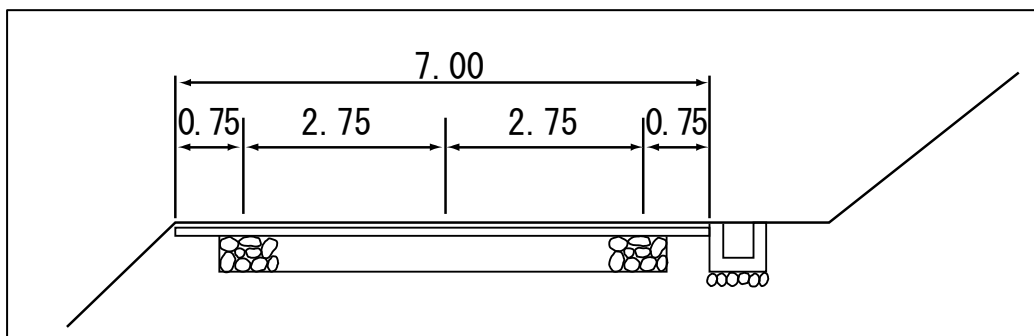
道路区分	一般道路（一般部）
延 長	1. 84 km
幅 員	7. 0 m
構造規格	第3種第4級
設計速度	30 km/h
車線数	2車線
事業主体	京丹波町

・ 計 画 図



・ 標準断面図

(単位：m)



事業の経緯及び進捗

1. 事業の経緯

- ・事業化 平成 13年度
- ・用地着手 平成 15年度
- ・工事着手 平成 16年度

2. 事業の進捗状況

- ・事業進捗率 57% (事業費ベース、平成22年度末見込)
- ・用地取得率 100% (面積ベース、平成22年度末見込)

3. 関係機関との調整等

終点部の接続について、南丹市と協議を進め、京都府との協力の上、舗装、築造工事を進めています。

4. 整備前の状況・・・幅員が4.0mであり狭小

写真①：



写真②



5. 今後の見込み

用地の取得については、完了しており、平成23年度において遮水擁壁部、南丹市境界付近の築造、平成24年度において南丹市付近の築造を完了し、全線舗装工を実施し、供用開始の計画としています。

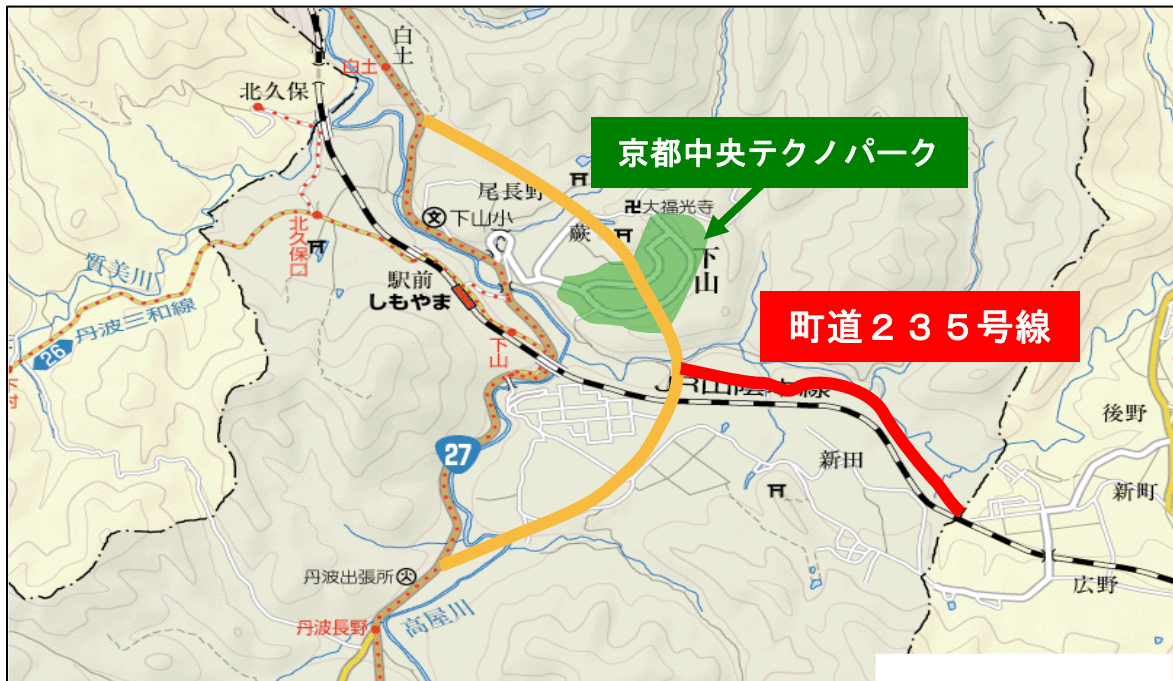
事業を取り巻く社会状況及び整備効果

1. 社会的背景

【沿線地域の概況】

町道235号線は、幹線道路である国道27号や、国道27号周辺の企業団地である京都中央テクノパークへのアクセス道路となっており、周辺地域住民にとっては必要な生活幹線道路ですが、道路が狭小であるため、安全に走行することが難しいのが現状です。

● 周辺地域の状況



京都中央テクノパーク周辺写真



京都中央テクノパーク内写真

2. 交通環境の改善効果

【道路整備による交通環境の改善】

町道235号線は、大型車との離合が困難なほど道路幅員が狭小であり、かつ未舗装の道路であるため、他の一般道路のような速度で通行することが困難です。また、未舗装の道路であるために、通行の際の安全性も確保されているとは言い難い状況です。

町道235号線を整備することによって、こうした問題を解消し、道路利用者の利便性の向上と安全を確保します。

● 町道235号線整備による所要時間の短縮



3. 医療機関へのアクセス性向上効果

【医療施設までのアクセス時間向上】

下山地域から近傍の医療機関までの移動では、国道27号、富田胡麻停車場線などの道路を利用して、遠回りする形でしか移動することができません。

町道235号線が整備されることで、下山地域から医療機関までの所要時間が短縮されます。

● 京都縦貫自動車道路 丹波 IC までのアクセス時間



→町道235号線が整備されることで、医療機関までのアクセス時間が向上

4. 高速道路の利便性向上効果

【京都縦貫自動車道路へのアクセス利便性向上】

事業路線周辺から京都縦貫自動車道路 丹波 IC へのアクセスでは、行程の半分以上が地方道であり、アクセスに時間がかかっています。

下山地域の新田地区は畜産業が盛んであり、京阪神地区からの飼料の搬入や生産物の搬出に不便な状況となっています。

町道 235 号線が整備されることで、幹線道路である下山バイパス、国道 9 号・27 号を利用して丹波 IC まで快適にアクセスできるため、京都縦貫自動車道の利便性が向上します。

● 京都縦貫自動車道路 丹波 IC までのアクセス時間



5. 河川総合開発事業「畑川ダム」支援

【河川総合開発事業との連携】

町道 235 号線は、京丹波町における治水・利水の観点から整備の必要性が高い「畑川ダム」の沿道の路線です。

町道 235 号線が整備されることで、「畑川ダム」建設に必要な物資の運搬等を円滑に進めることができます。

費用便益分析の結果（事業全体）

路 線 名	町道 2 3 5 号線
事 業 名	町道 2 3 5 号線道路改良
延 長	1. 8 4 k m

□便益

	走行時間 短縮便益	走行経費 減少便益	交通事故 減少便益	合 計
基 準 年	平成 2 2 年度			
基 準 年 に お け る 現 在 価 値	2 0 億円	5 億円	1 億円	2 6 億円 … (B)

□費用

	事 業 費	維 持 管 理 費	合 計
基 準 年	平成 2 2 年度		
単 純 合 計	6 億円	0. 4 億円	7 億円
基 準 年 に お け る 現 在 価 値	7 億円	0. 1 億円	7 億円 … (C)

□算定結果

費用便益比（CBR）
$B / C = \frac{\text{便益の現在価値の合計 (B)}}{\text{費用の現在価値の合計 (C)}} = \frac{26 \text{ 億円}}{7 \text{ 億円}}$ $= 3.9$

注) 費用及び便益の合計は、表示桁数の関係で計算値と一致しないことがある。

費用便益分析の結果（残事業）

路 線 名	町道 2 3 5 号線
事 業 名	町道 2 3 5 号線道路改良
延 長	1. 8 4 k m

□便益

	走行時間 短縮便益	走行経費 減少便益	交通事故 減少便益	合 計
基 準 年	平成 2 2 年度			
基 準 年 に お け る 現 在 価 値	2 0 億円	5 億円	1 億円	2 6 億円 … (B)

□費用

	事 業 費	維 持 管 理 費	合 計
基 準 年	平成 2 2 年度		
単 純 合 計	3 億円	0. 4 億円	3 億円
基 準 年 に お け る 現 在 価 値	3 億円	0. 1 億円	3 億円 … (C)

□算定結果

費用便益比（CBR）
$B / C = \frac{\text{便益の現在価値の合計 (B)}}{\text{費用の現在価値の合計 (C)}} = \frac{26 \text{ 億円}}{3 \text{ 億円}}$ $= 10.0$

注) 費用及び便益の合計は、表示桁数の関係で計算値と一致しないことがある。

コスト縮減や代替案立案等の可能性

本道路の施工にあたっては、水域への環境面も考慮して、のり面保護を実施しないこと等により、コストの縮減に努めながら事業を推進しています。

今後の対応方針（案）

（１）事業の必要性等に関する視点からの見解

町道２３５号線は、国道２７号下山バイパスより京都府南丹市の市道中道新田線へ通じる、全長約１．８kmの生活道路です。

現況の道路幅員は大型車の離合が困難であるほど狭小（ $W=4.0$ m）であり、かつ未舗装の道路であるため、本路線の整備によって国道２７号下山バイパスから南丹市までのアクセス向上を図ります。

また、本路線は治水の向上と安定した水資源の確保の目的で平成４年度から進められている河川総合開発計画「畑川ダム」の建設事業を支援する道路としても位置づけられています。

事業を進める事による費用対効果は、 $B/C=3.9$ となっており、事業実施の必要性が高い事業と考えられることから、今後も平成２５年度の供用に向け、現計画に基づき事業を進めて参ります。

（２）事業の進捗の視点からの見解

用地の取得については、完了しています。

今後は、完了していない舗装、築造を進め、平成２４年度の完成を目指します。

（３）コスト縮減や代替案立案等の可能性による視点からの見解

本道路の施工にあたっては、のり面保護を実施しないこと等により、コストの縮減に努めながら事業を推進します。